

15年目のフォーラム、これからは？

去る6月8日（土）午後1時半～3時半、教育会館中会議室において、ぐんま教育文化フォーラムの第15回総会が開催されました。

ぐんま教育文化フォーラムが、群馬県高校教育研究所から名称変更して新しい研究活動を始めてから15年目、これまでの活動を土台に、思い切って再検討する時期になりました。以下、その成果と改革点を列挙します。（詳しくは同封の「総会議案書」をご覧ください。）

(1) 県教育委員会の傍聴を続け、その記録を「ちょこっとコメント」として意見をまとめ、フォーラムのウェブページに公開し、教育委員会や報道関係者に届けてきました。最近、教育委員会も私たちの活動を気にしており、いくつかの報道機関とも意見交流をしています。



(2) 保育所・こども園・幼稚園、小・中学校、高校、特支校、大学など、教育現場や研究機関とのつながりを密接にしてきました。活動の中心は、教育現場への取材をもとにしたニュース発行です。「すなっぷ」には、毎回、子どもたちの生き生きした活動の様子が表情豊かに登場して好評です。これまでに訪ねた教育現場は、なんと84校になりました。

(3) 子ども・生徒・若者の様々な状況をリアルに把握するために、県内のNPOや支援組織と連携して支援の在り方を考えてきましたが、いまだ不十分です。

(4) 部会の活動の活性化に務めてきましたが、活動の実態に合わせて再編成をします。今年度の部会は以下の通りです。

①近現代史ゼミ②教育相談③原発と自然エネルギー研究④表現活動（スタジオ楽書会、自由画ひろば寺子屋）

(5) ニュースとホームページを充実させ、早

期に200名の会員をめざします。

総会では、参加者それぞれの意見と近況報告が出されましたが、特に学校現場の会員からは、リアルな実態と共にご自分の活動ぶりが語られて、元気をいただきました。以下にその一部をあげると、

「戦跡考古学を教えているが、若い学生の反応が良くて教えがいがある」「どこでも、人と金とがない。フォローに入ってくれる人がいなくて休めない。非常勤講師も足りない」「定時制高校には、不登校だった生徒が多い。背景にある問題は、特別支援学校と重なる部分がある」「非常勤の待遇がひどい！」「県教委に包括外部監督の指摘が出され、非常勤講師と事務職員の働き方2点が指摘された」「私学では常勤職員の給料が減らされている」「前橋空襲の体験談を紙芝居にして、広める活動を始めた」「数教協（数学教育協議会）の研究会に参加しているが、最近はずームを使っている」等々。



議長を務めていただいた澁谷正晴さん（安中総合学園高校）、齋藤理一郎さん（前橋清陵高校）、短い時間の中で参加者の意見を上手に取り上げていただき、ありがとうございました。（代表 瀧口典子）